

「北海道病院事業改革推進プラン」（素案）に対する 道民意見提出手続（パブリックコメント）実施結果の概要

1 実施期間

令和2年(2020年)11月27日から令和2年(2020年)12月28日まで

2 提出者数及び件数

14名、56件

分類	件数	分類	件数
基本的事項に関すること	4	経営の効率化に関すること	3
道立病院の現状と課題に関すること	10	一般会計負担金の算定の考え方に関すること	2
道立病院が果たすべき役割・機能に関すること	21	収支計画及び数値目標に関すること	1
医療従事者の確保対策に関すること	6	計画の点検・評価、公表等に関すること	0
再編・ネットワーク化に関すること	5	その他	4

3 主な意見

(1) 基本的事項に関すること

- 「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護の連携も十分考慮しながら、地域のニーズに適切に応えていく必要があります」との記載はその通りだと思う。

(2) 道立病院の現状と課題に関すること

- 人口が減る傾向ですが、道全体では比較的医療が必要で自前で病院へ移動する手段が不足がちな高齢者は減らない。病院のある地域で違いはあるものの、その点に留意した計画にしてほしい。
- 収入増の基本は患者数の確保だと思う。そのためには、住民にとって必要な診療科の開設・充実とともに患者が受診しやすくなる仕組みも必要だと思う。

(3) 道立病院が果たすべき役割・機能に関すること

- 江差病院が、札幌医科大学の「地域医療研究教育センター」に医学・研究フィールドを提供することは画期的な取り組みであり、圏域のみならず北海道の地域医療のためにも推進いただきたい。
- 羽幌病院の総合診療医育成の取組は大変すばらしい。しかし「地域センター病院であること」の記載がなく、「再編・ネットワーク化」では記載があるので、明確にした方がよいと思う。
- 緑ヶ丘病院の児童・思春期精神科医療においては、より専門性ある医師を確保するため、大学との連携を図ることも重要と思う。
- 向陽ヶ丘病院は「地域から求められる病院機能について検討」とされている。精神医療については地域医療構想調整会議の対象ではないため、具体的な地域内議論の枠組みの明示を期待する。
- コドモックルの経営改革の要素としてはDPCの可否程度。在宅支援や市町村への地域支援強化の方向性が強調されており、過度に経済性は追求しない姿勢との印象を受けた。

(4) 医療従事者の確保対策に関すること

- 地域での医師確保は、全国的に見ても喫緊・共通の課題である。最重要ではあるが、医師を取り巻く環境の整備は、遠因での医師労働の軽減や経営の安定化につながるものとする。
- すべての職種において今いる人材を離職させない対策が必要だと思う。

(5) 再編・ネットワーク化に関すること

- 道内医療の課題は、高齢化、過疎、医療資源の不均衡などがあると思う。解決には再編とネットワーク化が不可欠。特に医療過疎地域の道立病院は、建物等の老朽化など、経営が厳しいと考える。
- 再編・ネットワーク化に当たっては、現在の不十分な医療提供体制の下、患者数から機械的に病床数を削減しないでほしい。

(6) 経営の効率化に関すること

- 診療報酬はマイナス改定が続いてきた。道立病院及び道として、国に対し、患者の負担増にならない方法で診療報酬の大幅アップと公的医療機関に対する財政補填の増額を求めている。

(7) 一般会計負担金の算定の考え方に関すること

- 「Ⅲ 道立病院が果たすべき役割・機能」で示されているとおり、「民間医療機関が参入しにくい」「不採算」といった要素を踏まえ、十分な道基準の繰入額の設定を期待する。

(8) 収支計画及び数値目標に関すること

- 総務省のガイドラインが示されていないことや、素案で計画期間内での検討事項とされている事項も多いため、過度に経済性を追求することなく、現実的な視点をもった収支計画を期待する。

(9) その他

- このプランで、病床、診療科、人員配置数の縮小をするのはやめてほしいと強く望みます。国の言うままではなく、北海道は北海道のゆとりある医療体制の確保を求る。

4 意見の反映状況

区 分	件 数
意見を受けて素案を修正したもの	0
素案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	2
素案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの	4 4
素案に取り入れなかったもの	6
素案の内容についての質問等	3